

2021輝く県民活躍大賞

受賞活動(団体)の紹介

ジュニア・ユース部門

- 庄農うどん大作戦！
(庄内農業高等学校農業部食品加工班(うどん部))

若者部門

- ロードワークトレーニングを兼ねた地域見回り防犯
パトロール活動
(山形県キックボクシング連盟)
- 地域との連携による地域活性化活動
(山形大学Team道草)
- 「竹あかり」で、地域を照らす・地域を繋ぐプロジェクト
(夢プロジェクト「竹あかり×ゆき×祈り」実行委員会)

一般社会貢献部門

- ミュージカルの創造・制作・公演活動
(出羽庄内市民ミュージカル)
- 花いっぱい事業、かかしで地域づくり事業
(西原地区親睦会(花いっぱいの会))
- 妊娠・出産・子育て中の女性支援
(山形ママコミュニティmama*jam)

※部門毎団体名五十音順

庄農うどん大作戦！

庄内農業高等学校農業部 食品加工班（うどん部）



受賞した活動について

Q.どのような活動ですか。

庄内農業高校の加工品「庄農うどん」で、高校生と藤島地域の飲食店が連携してお店独自のメニューを作り、期間限定で提供する活動です。

高校生が地域の商工会から販売促進の指導を受けます。

期間中は飲食店で部員がお店のお手伝いをしながら、庄農うどんがお客様に届くまでを体験します。

Q.いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

庄農うどんは、元々授業の一環として製造・販売されていました。2018年に農業部食品加工班が発足し、高校生（部員）が主体となつてうどんの製造と地域への提供・

… 団体概要 …

代表者
食品加工班部長 田村 慎吾
所在地
鶴岡市藤島字古楯跡221
主な活動分野
社会教育の推進、子どもの健全育成、経済活動の活性化
設立年月
平成30年4月
会員数
部員18名、顧問1名、講師1名
ホームページ
<https://www.shonai-ah.ed.jp>
(令和4年3月現在)

販売を始めました。

飲食店との連携は、2019年から始めました。きっかけは本校OBの上野隆一さん（出羽商工会会長）が本校を訪れ、庄農うどんを使って地域活性化に繋げ庄農生を活躍させようと提案してくれたことからです。



飲食店での職場体験

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

活動の一環で飲食店さんにお手伝いにくので、身だしなみや礼儀作法、大きく伝える声を出すように心がけています。

地域の多くの人からの協力を得ての活動なので感謝の気持ちを忘れないようにしています。

Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

庄農うどんを使ったメニューが1時間もしないうちに完売したのを見て改めて庄農うどんの人気の高さを知ることができました。

仲間たちと協力して活動することの大切さや、地域と連携して高校生でも町を活性化することができるという可能性に気づきました。

そしてこれも一つの農業のかたちということを学びました。

Q. 活動をする中で困ったことはありませんか。

そのときどのように対応しましたか。

飲食店での接客自体初めてのことで、お店の人の話をよく聞き、わからないことはすぐに聞くようにしました。

飲食店が厳しい状況の中で思うように活動できない時間もありましたが、広報活動に力を入れ取り組んできました。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

自分から率先して動くことが大事だと先輩の姿を見て学びました。自分もそのようになりたいと感じました。

また、仲間と協力し合うことが大事だと思いました。

うどん部の活動のやりがいや達成感と、日常の部活動での自由さをアピールすることだと思いました。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

普段の部活動ではスイーツ作りに挑戦しています。

高校生が作る「幻のうどん」をぜひ藤島に来て味わってほしいです！ 来年もやります。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

庄農うどん大作戦の規模をもっと拡大して多くの人に「庄農うどん」を食べてほしいです。

そのために広報活動の手段を増やすなどして、もっともっと庄農うどん大作戦を盛り上げていきたいと思っています。



オリジナルメニューのポップ作り

ラジオ広報





ロードワークトレーニング を兼ねた地域見回り防犯 パトロール活動

山形県キックボクシング連盟

受賞した活動について

Q.どのような活動ですか。

基本トレーニングのロードワーク(ランニング)をしながら地域見回りを兼ねた防犯パトロール活動を行っています。

子供たちに道路に潜む危険箇所や交通ルールを教え、問題点を見つけた時は関係者に報告や復旧提案をしています。

Q.いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

2013年に当時前身団体の活動拠点だった山形市西部地区では、子供への声掛けや女性暴行事件が発生していたため、山形地区防犯協会連合会にロードワークトレーニングを兼ねた地域見回り防犯パトロールを申

… 団体概要 …

代表者

会長 齋藤 智宏

所在地

山形市北山形1-2-19

主な活動分野

競技普及活動、スポーツを通じた
青少年健全育成活動

設立年月

平成29年4月

会員数

約170名

フェイスブック

<https://www.facebook.com/yamagatakenkickboxingrenmei>
(令和4年3月現在)

し出て活動を開始しました。

西部地区は住宅や街灯が少ないため夜道が暗く、長期間街灯の球切れが放置されたままの道路も多かったため、夜間パトロールを行い球切れ箇所を確認して、町内会やコミユニティーセンターに報告と改善提案をしました。

Q.活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

特に小、中、高校生に対し青少年健全育成を大切にしています。

競技力向上目的の自己研鑽だけでなく、スポーツで鍛えた心と体を社会に役立てることが出来る人格形成を目指しています。

Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

上級生が下級生に対して安全配慮を行う姿を見て、子供たちの心の成長を感じることが出来ました。

また、指導者も車目線ではわかりづらい歩行者目線の危険や問題個所に改めて気づくことが出来ました。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

嬉しい悩みですが幅広い年代の参加者が増えたおかげで活動中に着用する防犯腕章が足りず、子供たちの交通安全確保が難しくなっていました。

山形県防災くらし安心部に相談した所、活動に適した反射材防犯具を支給していただきました。大切に使用させていただいています。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

当連盟に新たに参加する方は活動趣旨に理解と協力をいただいています。

ランニング中だれでも気軽にできる活動なので、関係団体を通して活動を広げたいというPRしていきたいと思っています。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

キックボクシング競技として全国でも珍しい公益財団法人山形県スポーツ協会に加盟して公式競技の普及に取り組んでいます。

防犯パトロール活動以外にも中高生対象のキックボクシング部活動、行政や民間企業が主催するキックボクシング教室、小学校PTA親子行事など様々な場面で競技普及を行っています。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

本場タイ王国ムエタイに挑戦しています。試合で活躍する若い力が育ち始めているので、選手育成に力を注ぎ、将来山形県からタイ王国チャンピオンやオリンピック代表選手を生み出す指導環境を作り上げていきます。本授賞を機に山形県の皆様に私たちの活動を知っていただけることを大変嬉しく思います。応援よろしくお願いいたします。

防犯パトロール活動の実施





農業手伝い活動

地域との連携による 地域活性化活動

山形大学Team道草

… 団体概要 …

代表者
代表 秋保 恭平
所在地
山形市小白川町1-4-12
主な活動分野
金山町を中心とした最上地域の
連携した地域活性化活動
設立年月
平成25年3月
会員数
会員117名
ツイッター
<https://twitter.com/teammichikusa>
フェイスブック
[https://www.facebook.com/](https://www.facebook.com/チーム道草-507353576019840)
チーム道草-507353576019840
(令和4年3月現在)

受賞した活動について

Q:どのような活動ですか。

Team道草は学生の「やってみたい！」と地域の「やってほしい！」をテーマに最上地域を中心として活動を行っている団体です。活動内容もテーマに沿ったものとなっており、学生のやってみたいことや地域のやってほしいことを中心に取り組み、小中高生を対象に勉強を教える「学習支援」や「農業活動」、小学生より下の世代やその保護者の方と関わる活動、今は有効活用されていない観光名所となりうる谷口銀山をPRする活動、その他最上地域で行われるイベントの運営補助や主催をオンライン、オンライン問わず行っています。

Q:いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

平成24年12月から始めた活動です。

平成24年に実施された山形大学のフィールドワーク授業で金山町に訪問したことをきっかけに、地域を地域の方々と協力して盛り上げていきたいと考えたため活動を開始しました。

Q:活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

私たちの活動は地域の方々との協力が必要不可欠なものばかりであるため、地域の方々のつながりを大切にしています。

また、興味があることには飛び込むことを意識して、今までも活動を拡大してきました。

Q:活動の中からどのような気づきや発見がありましたか。

大学生だけではできないことは少ないと

思っていました。いざ行動してみると多くの方が支えてくださり、できないと思い込んで行動しないのはもったいないことであると思うようになりました。

また、地域の方は大学生等の若い力を必要とくださり、このことからもどんなことでも行動してみることが大切であると感じました。

Q. 活動をする中で困ったことはありませんか。

そのときどのように対応しましたか。

コロナ禍では、活動自体を大学から禁止され活動できなくなってしまう時期がありました。

しかし、オンラインでできることを模索することで、「U-18 オンラインフェス」の主催や現地の中高生と協働したPR動画作成など、オンラインでも出来ることを中心に活動を継続しました。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

大学のサークル活動であるため、新入生歓迎の時期にはサークルの魅力を伝えられるようにオンラインを活用した宣伝を行うのはもちろんのこと、コロナ前は実際に活動拠点に新入生を連れていき、地域の雰囲気を感じてもらうことで、興味を持ってくれる仲間を増やそうと取り組んでいます。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

私たちは学生団体ということもあり、学生らしい元気や大人数だからこそそのマンパワーもあります。この学生らしさが学生ならではのアイデアを生み出すため、アピールポイントになると思います。



金山ツアー

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

今まで以上に積極的に活動していきたいと考えています。地域としっかり連携することで、「楽しい」を自分たちで作り上げ、それを多くの人に連鎖させていけるようにしたいと思っています。

「コロナで苦しい思いをしている今だからこそ、学生の持っている元気を存分に発揮していきたい」と思います。



オンライン交流会



「竹あかり」で、地域を照らす。 地域を繋ぐプロジェクト

夢プロジェクト「竹あかり ×ゆき×祈り」実行委員会

受賞した活動について

Q:どのような活動ですか。

約40名の学生(高校生・大学生)と社会人が連携し、地域を照らす・地域を繋ぐ「竹あかり」を市民の方々と一緒に作り、季節や場所を問わず様々な地域活動の中で、山形全体を優しく照らし、彩りと感動を繋げるプロジェクトです。

Q:いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

平成28年12月、第40回を迎える米沢の冬の一大イベント「上杉雪灯籠まつり」開催にあわせ、幅広い世代の有志が集結し、感動を共有できるプロジェクトを立ち上げました。

「もっと山形を盛り上げたい!」「みんなの笑顔が見たい!笑顔を広げたい!」「熊本と

… 団体概要 …

代表者

実行委員長代理 鈴木 美由紀

主な活動分野

地域活性化、多世代多地域交流、
郷土愛の醸成、新しい文化の創出

設立年月

平成28年12月

会員数

会員40名

フェイスブック

<https://www.facebook.com/takeakari.yonezawa>

(令和4年3月現在)

Q:活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

幅広い年齢層のスタッフ・参加者と完成した竹あかりを一緒に灯し、感動を共有し合えるアットホームな場づくり・雰囲気づくりを心がけています。

市内各所で開催する竹あかりづくりワークショップには、学生も指導者として積極的に関わることで学生のスキルアップ・自信に

灯りを繋げたい!という想いが一つになった「竹あかり」で地域を照らす・地域を繋ぐプロジェクトです。竹あかり演出家「CHIKAKEN(熊本)」にアドバイスをいただき、高校生・大学生が中心になり社会人メンバーがそれをサポートする体制で、各々の得意分野を活かしながら1人1人が「新しい夢」に向かって日々楽しく活動しています。

繋がり、さらに竹あかりづくりを経験した参加者が次回は指導者として学校やコミセン、町内会などで自発的にワークショップを開催し魅力を広めています。

さらに、米沢に住んでいる学生だけでなく、東北芸術工科大学や山形大学小白川キャンパスなど市外大学生も、スタッフとして会議から参画し、米沢の大学生や地域の方々と交流を深める場にもなっています。



小学校での竹あかりづくりワークショップ

Q. 活動の中からどのような気づきや発見がありましたか。

【夢プロジェクト】は、実行委員スタッフだけでなく、それを支えてくれる地域の方、仲間、家族、そしてイベントに来てくれたお客

様と一緒に、『心と心を繋ぐ 夢と感動あるストーリー』を作り上げるプロジェクトになっています。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

上杉雪灯籠まつりにおいて、毎年メイン会場のほか中心市街地でも灯し、メイン会場を訪れるお客様に市内も楽しみながら周遊してもらうことで、オール米沢での「おもてなし」に触れていただいています。

昨年はコロナ禍の影響で上杉雪灯籠まつりが中止になってしまいましたが、これまで一緒に連携してきた各商店街の方々はじめ地域住民の方、関係団体、行政からの温かいご支援をいただき、当初の演出内容を変更しながらも「竹あかり」で街を明るく優しく灯すことができ、市域全体で地域活性化の機運を高めることができました。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

スタッフ1人1人が「笑顔」「感動」「感謝」を共有し合える楽しい場づくりを意識しています。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

熊本地震復興のシンボルとして広がる「竹あかり」を熊本の方と一緒に製作し東北で灯すことで、熊本に想いを寄せ、さらには東日本大震災復興の祈りと繋いでいく活動にも広がっています。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

これからも竹あかり活動を通して、たくさんの人と地域を照らし、人と人・地域と地域を丁寧に繋ぎながら、夢と希望あふれる想いと街中の賑わいを未来にしっかりと受け継いでいきます。



東日本大震災復興祈念事業





ミュージカル「ハッピーバースデー」の公演

ミュージカルの創造・制作・公演活動

出羽庄内市民ミュージカル

受賞した活動について

Q.どのような活動ですか。

「いじめ・虐待防止のテーマ」を、小学生達と妖精と祖父母世代とで包み込んだ親子で鑑賞できるミュージカル「ハッピーバースデー」と、庄内各地に残る蜂子の皇子の歴史口マンを、現代の子供達が訪ねるミュージカル「蜂子の皇子物語」をレパートリーにしています。

保育園児から70代までの老若男女の公募市民が、稽古し公演する活動が中心です。

Q.いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何ですか。
公益的なテーマの2012年の「ハッピーバースデー」初公演で、大きな反響がありました。

ミュージカルという公演スタイルを受け入

… 団体概要 …

代表者

代表 高山 千代子

主な活動分野

学術・文化・芸術、スポーツの振興

設立年月

平成24年4月

会員数

役員11名

ホームページ

<https://teamtsunami.web.fc2.com>

(令和4年3月現在)

れてもらえると実感し、次は庄内の歴史口マンをミュージカルで創作しようとなりました。翌2013年の「ハッピーバースデー」公演で、「蜂子の皇子物語」予告編を発表、観客の反応が良くて、「蜂子の皇子物語」も地域から受け入れられるテーマだと実感し、本格創作を開始しました。

Q.活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

まず、ミュージカルのテーマを、参加者に理解してもらう事です。

そして、参加者が「成就感を実感できる事」を大切にしています。公演毎に公募する参加者は、障がい児・保育園児から高齢者まで様々で、初心者から継続参加者まで、力量・個性がまちまちです。それぞれのスタート地点を確認し、段階に合わせた練習メニューと

目標を設定しています。

Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

高校生以下の初参加者は、スタートのスキルが高くはないです。観劇してもらえるまでになるには時間がかかります。でも、粘り強く練習をする内に突然飛躍します。指導する大人達には、その瞬間に立ち会えるのが、何よりの喜びです。社会人参加者が、ゆるやかに力を伸ばすのと対照的です。

社会人には、「努力する力」が有り、若者には、「限らない秘めた力」が有ると実感します。

Q. 活動をする中で困ったことはありませんか。そのときどのように対応しましたか。

1つ目は、コロナ禍で、長期間練習場所を使えなくなった時です。対応には、ビデオ画像をライン送信してダンスなどの練習を行いました。遠方指導者のオンライン講習も、受講しました。

2つ目は、コロナ禍で小中学生の参加者が減った時です。会場使用料・講師の指導謝礼などに充てる会費が不足しました。対応は、会費値上げは不可で、企業さんの協賛金を集めました。応援者の力が大きかったです。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

①ホームページ・ツイッター・フェイスブックなどで参加呼びかけ。②姉(妹)が参加していたので一緒にと声掛け。③チラシ・新聞記事を見て。④既参加者から直接声掛けする。といった方法で参加を呼びかけました。

①は、少なかったです。コロナ禍以前に多かったのは、③でした。しかしコロナ禍後は、④が一番多いです。

諦めないで声掛けする事と、明るく楽しい活動であることを納得してもらう事が大切です。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

海外クルーズ客向けに、出羽三山神社の齋館で、英語編「Prince Hachiko」の公演を4回行いました。小学生も社会人も英語レッスンで学んだ言葉で、海外観光客と交流しました。

クルーズが中断してからは、YouTube動画「The Amazing Story of Prince Hachiko」(英語字幕付き)を、2本アップしました。2021年3月にアップした1本目は、1年間で1188回再生、うち7割は海外からの再生でした。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を

行っていく予定ですか。

コロナ禍を克服して、観客を迎えて舞台公演が出来る日まで、舞台創造の魅力をより多くの人に伝え、参加者を増やすために、SNS・YouTubeなどで、団体の構成・活動内容を吟味・工夫して、より多くの人が興味を持つてくれる情報を発信します。



出羽三山神社齋館での
海外クルーズ船ツアー客への公演



YouTube 動画
“The Amazing Story
of Prince Hachiko”





かかし君ありがとう感謝祭

農作物の見守りを終えたかかし君をねぎらう「ありがとう感謝祭」で、見学会や輪投げ大会・青空コンサート等を開催して交流親睦を図っています。



輪投げ大会

公民館周辺に花々を植栽し地域を訪れる方々を花で迎えています。
また、元気な地域づくりと鳥獣被害防止対策のため、地区民総ぐるみでかかしの郷を宣言し「サル熊追い払い大作戦」を掲げ、かかしづくりを進めております。

受賞した活動について
Q:どのような活動ですか。

花いっぱい事業、 かかしで地域づくり事業

西原地区親睦会 (花いっぱいの会)

… 団体概要 …

代表者
会長 溝越 正廣
所在地
尾花沢市大字寺内2565
主な活動分野
地域の景観保持、環境美化
設立年月
平成10年4月
会員数
地区79世帯約240名
(役員数15名)

(令和4年3月現在)

Q:いつから始めた活動ですか。
活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

平成10年、地区の有志20人で「花いっぱい」の会を立ち上げ、花壇づくりや盆踊りなど地区行事のスタッフを担ってきました。
年々少子高齢化や若者の人口流失で行事が減少し、更には農地や里山の荒廃から鳥獣の被害が拡大していることを危惧し、平成31年に全79世帯で西原地区親睦会を結成しました。

地域の賑わいを再び取り戻すため気軽に参加できる行事を開催しています。

Q:活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

現在7割を超える家庭が自作地にかかしを設置しています。大多数の地区民が同じ方向を見ていただいています。

かかしづくりは優劣をつけず、全作品に〇〇賞(例・花に囲まれ気分最高で賞・どれ一服しま賞)を差し上げています。

かかしの案内図や看板を設置し、更にチラシ「かかし君ニュース」でイベントの様子等を全戸にお知らせし、みんなでこの事業を取り組んでいることを確認しています。

Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

老人カーでイベントに参加する方、孫が着た古着や野良着をいいかかしづくりをする一人暮らしの高齢者や老夫婦・親子の様子、高齢施設からの見学者、ふるさと学習で訪れた小学生、どの顔も笑顔、笑顔の光景を目にしました。

地域が寂しくない、家族での会話がふえた、農作物の被害も少なくなった等の声が寄せられました。高齢者の見守り活動や居場所づくりにも繋がっています。

Q. 活動をする中で困ったことはありませんか。

そのときどのように対応しましたか。
事業の推進役を担っている年代がほとんど高齢者で、今後とも同事業を継続することとは難しい現状ですが、交流や親睦会の中で話をしながら無理のない事業を進めていきたいと思っています。現在、地域の中堅層の方々にもかかしの搬出入やイベントの準備作業

をお願いし出来るだけ地域と関われるような機会を作っているところです。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

花いっぱい会の会の活動に新たな仲間も加わり、かかしづくりを通して地域行事(収穫祭等)が復活しました。その内容がテレビや新聞で報道され県内各地から多くの見学者が訪れています。かかしの作り方等の情報を交換したことで他の地区でもかかしづくりが始まっています。地区民と寺内グランドゴルフ愛好会との交流会大会を開催するなど多くの仲間と交流親睦を深めています。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

物を言わず、ただひたすら風雨に耐え、6か月間農作物の見守りや賑わいづくりに頑張ったかかし君を想い、製作者や子供たちの声で代弁した動画「かかし君の独り言」が完成しました。尾花沢市YouTubeチャンネルでご覧ください(↓)。

また、会員が作詞した歌「郷のかかし」が誕生しました。地区の集会や高齢者お茶のみサロン等で活用しています。地区公民館にもDVDを備え、他の地区にも貸し出しています。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

「コロナ禍の中で交流の機会が少なくなっていますが、自然の中でそれぞれの家庭が取り組めるかかしづくりを主に、みんなが笑顔で交流親睦が図れるイベントを開催する予定です。役員自ら遊び心を持ち続けたいと思います。

家々が点在するのどかな田園地帯も冬は一面の銀世界。春の訪れとともにリアルなかかし君達が皆様をお待ちしております。

農作物を食い荒らすサル熊イノシシはご遠慮下さい。

YouTube
動画「かかし
君の独り言」





2021輝く県民活躍大賞
一般社会貢献部門

妊娠・出産・子育て中の 女性支援

山形ママコミュニティ
mama*jam

受賞した活動について

Q:どのような活動ですか。

県内在住の母親たちが育児をする際の悩み相談や、相互の親睦を深めるため、Face bookグループを拠点にオンラインで様々な交流を実施しています。

また事業受託や補助金、サポート企業の寄付金などを活動資金としています。

事業や活動内容ごとにチームメンバーを公募して、アイデアを出す者、先輩ママとして経験談を話す者、チラシを作成する者、資金管理を行う者など、それぞれの母親たちの意欲と得意に応じた活躍の場を創出しています。

Q:いつから始めた活動ですか。

活動を始めたきっかけや理由は何ですか。
代表の山川は産後ちよつとしたことで不

… 団体概要 …

代表者
代表 山川 唯美
主な活動分野
妊娠・出産・子育て中の女性
支援
設立年月
平成30年10月
会員数
役員3名、会員約700名
ホームページ
<https://mama.jam.com>
(令和4年3月現在)

Q:活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

mama*jamに参加することで、様々な交流を通し、母親自身が一人の女性として山形の地で繋がりを感じられ、成長できる場づくりができるような運営を心がけています。会ったことではないけど、「同士」と思える関係性を構築できる「コミュニティ内の雰囲気

安になり、いつもスマホで誰が書いたかわからないネット情報を見ていました。そんな時相談して本当に「心」が安心できたのは、身近な先輩ママでした。
『ママ』だけど『1人の女性』として成長し、山形でもっと楽しく暮らすために、先輩ママに頼って、同士の皆と情報交換をしたい！そんな想いから2018年10月にmama*jamを発足しました。

作りを大切にしています。

Q. 活動の中からどのような気づきや発見がありましたか。

県内で子育てをしている女性たちが実名で実体験をもとに情報発信することで、信ぴょう性のあるコミュニケーションが生まれ、さらにそこで知り合った方同士が繋がりをもち友達になるなど、「安心して情報交換ができる」環境を整えられていると感じています。デジタルを活用した新しい仲間づくりがうまくいっていると思います。

Q. 活動をする中で困ったことはありませんか。そのときどのように対応しましたか。

コミュニティ内での活動を活発にするにはオンラインイベントなどを定期的にやるのが大切だと感じていました。その際、活動資金が必要な場面がありましたが、サポート企業の協力を得ることができ、さらに行政との協働事業にて目標を達成することができると、やりたいことを実施するためにメンバーやサポート企業に意見を仰ぐなどの工夫をしています。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

情報をキャッチしたい層へ届くようにSNS等を活用した発信を継続的にしています。

また、メンバー自身が子育て支援センターへ行った際などに会った親子にチラシを配布するなど、会話の中でコミュニティに興味がありそうな場合にはその場で招待をしています。先に入ったメンバーが友達を招待することもできます。常にメンバーでアイデアを出し合い試行錯誤しています。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

産前産後の母親は不安で孤独な日々を送るので、仲間づくりや不安解消のためのオンラインイベント「山形ママスタートプログラム」を2020年から継続して実施しています。

また、ママたちの活躍の場の創出を考え、随時企画内容に応じてチームメンバーを募集しています。積極的に自身の成長の場として利用していただきたいと思っています。

私たちの活動を応援してくれるサポート企業も募集中です。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

家族、妊娠、出産、子育て、仕事など、山形の女性たちを取り巻く様々なライフステージにmamajamの先輩ママ達が「大丈夫だよ」とアドバイスをする仕組み作りを今以

上に構築していきたいです。
会いたいと思った時に会えるほどよい距離感で、オンラインに関わらずリアルでのイベント企画などでもしたいと思っています。



オンラインイベント

2019 クリスマス会



2021輝く県民活躍大賞 受賞活動(団体)の紹介

令和4年3月31日 発行

<ジュニア・ユース部門、一般社会貢献部門>

山形県防災くらし安心部 消費生活・地域安全課

県民活動・防災ボランティア支援室

<若者部門>

山形県しあわせ子育て応援部 女性・若者活躍推進課